



新潟県作業療法士会ニュース

朱鷺
TOKI
TOKI

No. 2

県士会表彰

5月の総会時に県士会表彰が行われました。功労者表彰4名、役員表彰1名の方が受賞されております。

この度の受賞を心よりお祝い申し上げます。益々の飛躍を遂げられますようお祈り申し上げますとともに、今後ともご指導いただきますようよろしくお願い致します。

左から役員表彰を受賞された高橋裕子先生、
功労者表彰を受賞された後藤喜代美先生



次のページには受賞された皆様から会員に向けたメッセージを頂いております



授賞式の様子

今回受賞された先生方（50音順）

☆役員表彰

・高橋 裕子様（介護老人保健施設 春風堂）

☆功労者表彰

・稲垣利重子様（新潟労災病院）

・後藤 道子様（すずらん訪問看護ステーション）

・後藤喜代美様（県立吉田病院）

・前川 枝里様（はまぐみ小児療育センター）

○高橋裕子様 / 医療法人社団 慶友会キタムラ 介護老人保健施設 春風堂

1982年犀潟リハ学院卒業し、竹田綜合病院入職。1985年立川綜合病院入職。1998年介護老人保健施設 春風堂入職し現在に至る。表彰して頂いて良かったのかともありましたが、OTとしての自分を見直す機会になりました。ありがとうございました。

○後藤道子様 / 社会医療法人桑名南風会 すずらん訪問看護ステーション

この度、新潟県作業療法士会より功労者表彰をいただきました。県士会の会長をはじめ表彰委員会の皆さま、会員の皆さまに深く感謝申し上げます。

正直なところ、経験年数30年以上ではありますがこのような未熟な私ですので表彰受賞はまったく考えた事がなく恐縮に思っております。卒後、病院で手の外科の分野を中心に整形外科、脳外科、神経内科等々全身疾患のOTを実施し、その後この10年は在宅に関わっております。先輩、後輩の方々が一生懸命に努力されているなか一緒に仕事をさせていただいてきた結果であり、関わってくださった諸先生方や身を置かせていただいた環境のお陰であると思っております。今は、作業療法士になったこと、続けてこれたことを心からよかったと感じております。

受賞をひとつの区切りとして、これからも一作業療法士として、少しでもお役に立つ限りは何かの形で社会に関わって参りたいと思っております。皆さまには、これまで通り変わらぬご指導をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

○後藤喜代美様 / 新潟県立吉田病院

この度は、功労者表彰を頂きましてありがとうございます。

神奈川県の学院を卒業後、何もわからないまま県立病院に入って32年が過ぎました。その間、7回の転勤で村上、六日町、吉田、新潟、新発田の5つの地域と身障と小児の2領域を経験させていただきました。どの職場でも他の作業療法士（全員私より年下！ですが・・・）に助けられながら、楽しく仕事を続けることができました。本当に感謝、感謝です。採用時の県立病院の作業療法士はたったの3人でしたが、現在は仲間が40人にもなり、私の子供世代の方々が採用されています。そんな後輩の皆様が少しでも仕事がしやすくなるような道を作ることができれば・・・なんて、ガラにもないことを思いながら毎日、大好きな患者さんと訓練で向かい合っている今日この頃です。

○前川枝里様 / 新潟県はまぐみ小児療育センター

この度は、栄えある賞をいただきありがとうございました。1985年に養成学校を卒業し小児施設へ勤務させていただき30年が経ちました。この間、先輩や同僚、お母さん方とお子さん達に教えられ継続できたこと感謝します。今は、私より若いOTの人へ伝えることが役目だと思っています。ありがとうございました。

生活行為向上マネジメント委員会からのお知らせ

平成27年7月18日
(理事会承認)

生活行為向上マネジメント研修制度 (平成28年度～)

一般社団法人
日本作業療法士協会

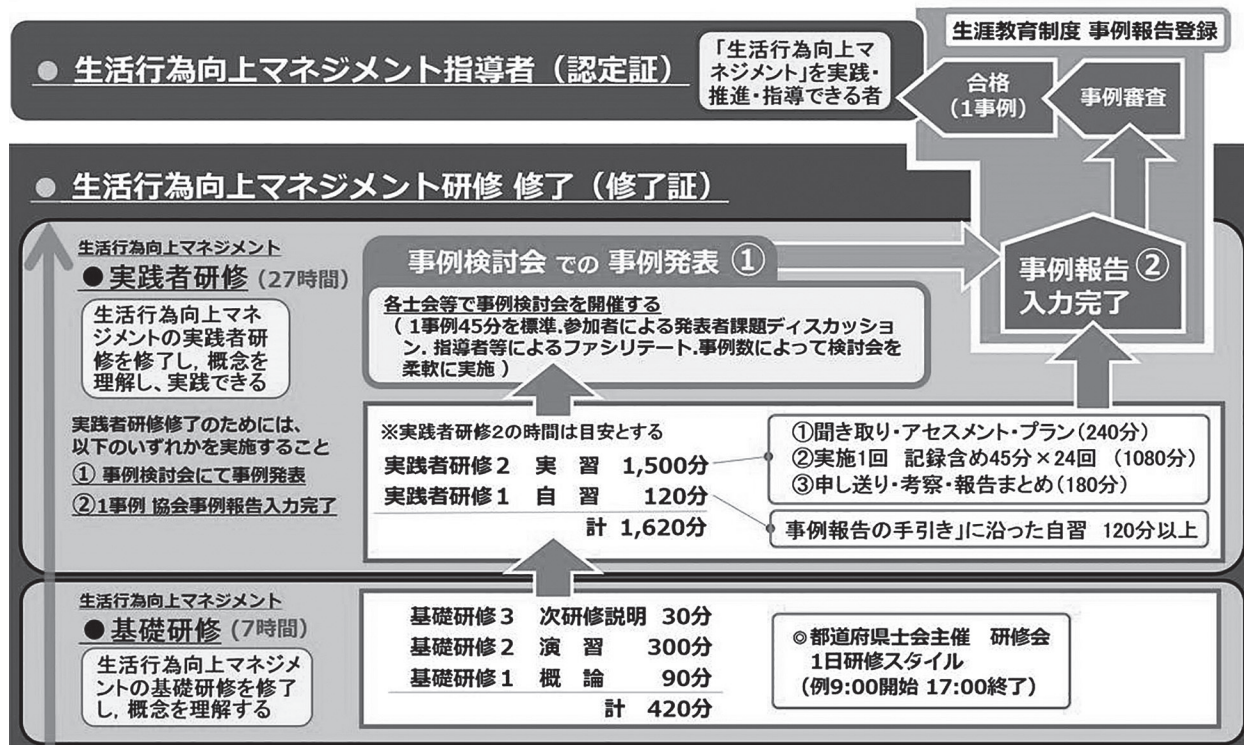


図 1

平成27年7月のOT協会理事会にて、生活行為向上マネジメント研修制度が確定・承認されました。図1のように、平成28年度からは平成27年度までの基礎研修、実践者研修が1セットになり、生活行為向上マネジメント研修に変わりました。

MTDLP基礎研修では、MTDLPの活用に必要な視点を学び、グループワークなどで事例の演習を行います。その後、各臨床現場において、MTDLPを用いた実践を各自で行い、実践の結果は、県士会が実施している事例検討会での発表、または協会の事例報告登録を行って頂くことで、生活行為向上マネジメント研修修了となり、修了証が発行されます。事例報告登録では、1事例が審査合格し、事例登録されると「生活行為向上マネジメント指導者」と認定されます。「生活行為向上マネジメント指導者」とは、生活行為向上マネジメントを実践・推進・指導できる者を指します。

また、以下のように、従来からある協会の生涯教育制度に対応・整合されました。

生活行為向上マネジメント研修	生涯教育制度
MTDLP基礎研修	現職者選択研修 MTDLP必修研修+4領域から1領域以上選択
MTDLP実践者研修 「事例検討会における事例発表」	現職者共通研修「10.事例報告」
MTDLP事例報告登録制度への登録	認定作業療法士取得要件「事例報告」

今年度、新潟県内では、MTDLP実践者研修(事例検討会における事例発表)を、2回(12月、3月)開催する予定としています。MTDLP基礎研修を受講された会員の皆様においては、積極的に事例発表して頂き、また協会の事例報告登録制度への登録にも繋げてもらうことで、新潟県にも多くの「生活行為向上マネジメント指導者」が誕生することを推進していきたいと思います。今後ともご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

生活行為向上マネジメント委員会

「地域包括ケアシステム」

地域包括ケアシステム推進事業 担当理事 **村 山 拓 也**

「地域包括ケアシステム」という言葉、最近では様々な場面でも多く聞かれるようになってきました。会員のみなさんも以前よりは耳にする機会も増えていると思います。

今年度、新潟県作業療法士会では、各市町村に支部長を配置し、全支部長へ説明会を実施、その後、県内8か所で各施設の代表者向けに同様の説明会を実施してきました。会員の皆さんも、施設の代表者から伝達をされ、作業療法士が関わっていく必要性を感じているのではないのでしょうか？

新潟県内ではリハビリテーション専門職3団体で、新潟県リハビリテーション専門職協議会を設立し、地域包括ケアシステムにおいてリハビリテーション専門職種が関わりやすい環境の整備と調整を行っています。協議会の活動のひとつに、新潟県より委託された介護予防推進リハビリテーション指導者総合育成事業があります。本年度は、各団体で企画・運営となっており、当県士会は認知症に関する2日間の研修会を企画しています。詳細は下記を参照ください。

今年度の県士会の取り組みに目を向けると、県学会、研修会、公開講座、地域での活動、どれも地域包括ケアシステムに関連する内容だと感じています。県学会1日目は認知症を取り巻く現状、課題、思いについて、2日目は自分の作業療法についての振り返り、障害者の活動・参加について考える機会でした。公開講座は地域のあり方について学ぶチャンスです。MTDLP研修は地域ケア会議に活きます。地域での活動が地域包括ケアシステムのモデルになっていきます。今後の研修会への参加、地域活動への参加は、みなさんの作業療法を成長させてくれると思います。無理のない範囲でご検討ください。

また、地域包括ケアシステムに関する質問・疑問があれば、県士会HPの問い合わせや支部長を通してご連絡ください。

【(仮)介護予防推進リハビリテーション指導者総合育成研修会(認知症)】

期日：2017年1月7日、8日

会場：燕三条地場産業振興センター メッセピア5階 大研修室

内容：認知症の疫学、動向、薬剤、行政の取り組み、家族、介護支援専門員の意見

認知症の取り組み(デイサービス、生活行為、認知症カフェ等)



急性期からの＊
ハンドセラピーを
お手伝いします。

＊ スプリント ＊

● 酒井医療株式会社
新潟営業所
Tel: 025-286-1788
www.sakaimed.co.jp

介護用品、レンタル・販売
リハビリ機器、医療機器販売

(株)いわしや
悠久堂医科器械店

本 社 TEL 0258-47-1848
新潟営業所 TEL 025-284-6866

特別寄稿 ～ 鐘を鳴らす人 ～

自宅会員 間 牧 子

地域包括ケアが叫ばれ、OTの地域社会での活躍が期待されて久しい。では、一体何人のOTが地域で活躍しているだろう。フツウのOTにとって地域社会へ出ていく自信も経験も乏しいに違いない。

では、地域社会で求められるOTの資質は何か？やる気・根気・元気とともにOTとしてのフツウの感覚（障がい者観・ICF）に加えて医学的常識・評価ツールの知識・福祉用具の情報などそして最も大事なのは地域社会の一員であるという自覚であろう。

自治会やPTA、消防団やお祭りの実行委員などに属して地域社会の一員として地域に関わっている自覚がある方は十分な資質を有している。子育て中のヒト、経験豊富な主婦、親の老化を気にする若者、みな地域社会の一員として他の住民と何らかの接触があり、社会に窓を開いている。

さあ、自分のフィールドで少し社会貢献してみよう。きっともっとよい包括ケアのアイデアが生まれてくると思う。

♪和田アキ子のうた♪・・・あの鐘を鳴らすのはあなた・・・にでてくる「希望の匂いのするあなた」になって高らかにOTの鐘の音を鳴らしてほしい。

全国学会に参加して

総合リハビリテーションセンターみどり病院 馬 場 晃 一

今回、初めて全国学会に参加・ポスター発表させてもらった。一年前から発表の準備しており、直前には緊張しっぱなしであった。しかし、発表の5分間はあっという間に終わり、もっとうまくできたのでは？と後悔する部分もあった。他者の発表を聴いていると、自分の不十分さを知り、また自分にはない視点や切り口を知ることができ、今後の自分の診療に活かしていこうと感じた。

会場には多くの作業療法士が集まっており、普段の研修や県内学会とは違った雰囲気を感じた。会場では大学時代の仲間や先輩、先生、研修会などで知り合った方たちと再会することができ、お互いの現状や知識について情報交換することができた。また、大学の仲間とは一緒に札幌の街で酒を飲み、ちょっとした同窓会も開くことができ、有意義な三日間を過ごすことができた。

今後も自己研鑽や情報交換、同窓会の為に、機会を見つけて学会に参加していきたいと思う。

第7回JIMTEF災害医療研修ベーシックコースに参加して

介護老人保健施設しんあい園 笹 川 裕美子

9月3日(土)・4日(日)の2日間、標記研修にて災害医療・災害リハビリテーションについて学ぶ機会を頂きました。災害医療の概論、東日本大震災や熊本地震におけるDMAT・JRAT等の活動報告、災害支援シュミレーション、避難所運営ゲームなど多岐にわたる内容の中から、作業療法士にとってすぐに活用できるものをご紹介します。

① 災害の定義

災害対策基本法では、災害とは「暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象又は大規模な火事若しくは爆発その他その及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害をいう」と定義されていますが、被災した地域・住民を支援する観点からは、災害が人間生活や社会構造に及ぼす影響を重視して「被災地域内の努力だけでは解決不可能なほど、地域の包括的な社会維持機能が障害された状態」をいい、また医療の観点では、「災害とは医療の受給と供給のバランスの急激な崩壊が生じること」であり、アンバランスが大きければ大きいほど大規模災害といえること、(その点で救急医療とは決定的に違うこと)を理解して支援活動にあたる必要があります。

② CSCATTT

研修では災害医療・災害リハビリテーションに携わるためのキーワードを多く学びましたが、中でも「これを知らないのは災害医療に携わったことがないのと同じである」と言われるほど重要な「CSCATTT」をご紹介します。

C : Command & Control 指揮・命令(タテ)と連携・調整(ヨコ)

災害支援者は速やかに現地のコマンド&コントロール下に入り活動する

S : Safety

Self(自身の安全)・Scene(現場の安全)・Survivor(生存者全員の安全)を確保する

C : Communication 「情報が災害を制する」

A : Assessment 評価

T : Triage

災害時のトリアージは「限られた人的物的資源の中で最大多数の傷病者に最善を尽くすこと」を優先する

T : Treatment 応急処置

T : Transportation 搬送

CSCATTTを理解しておくことにより、異なる専門性を有する者同士が効果的・効率的に災害医療に携わることが可能になります。

③ ICFからみた災害

ICFを構成する「健康状態」「心身機能・構造」「活動」「参加」「個人因子」「環境因子」の中で、災害時はまず「環境因子」が大きく障害され、長期化することにより、全ての矢印に影響を及ぼ

し、災害関連死につながりかねない悪循環を生み出します。これは、個人においても地域においても同じです。「活動」と「参加」を再生または新たに創造する支援が、復興につながります。これはまさに作業療法士の役割であり、災害発災後から急性期・亜急性期・慢性期・復興期のいずれの期においても求められる支援のあり方だと思います。

④ 災害支援における心構え

最期に、国立災害医療センターの小早川医師の言葉をご紹介します。「普段、僕の専門は『救命救急』なので、災害現場で『自分は救命救急医ですが』と言いますが、それほど必要とされない時も多々あります。その時は、『自分は医師ですが』と言ってみます。そして専門でない内科的な診療をしたり、時にはおばあちゃんのお話を聴いたりします。それも必要とされない時は、『ただのおじさんですが』と言って、ボランティアとして椅子を運んだりもします。私たち医療職は専門性を役立てたいと現場に入りますが、専門性を押し付けるのは現場にとっては迷惑なだけです。専門と一般の間を柔軟に行き来できる『ジェネラリスト』の感性が大切だと思います」

日本の災害医療の最前線で活躍されている医師がこのように話されていたことが、とても印象に残りました。東日本大震災の際、県士会の福島支援に参加させて頂いて以来ずっと抱えていた「作業療法士として何ができたのだろうか？」という問いに、答えを得たような思いがしました。作業療法士にとって何より必要な感性ではないでしょうか。

今、日本のあらゆる専門技術が、「防災」から「減災」へシフトチェンジしています。また、災害医療のスローガンは「防げる災害関連死をゼロに」だそうです。災害はいつ起こるか分かりません。医療職の一員として、作業療法士も同じスローガンの基に活動できるよう平時から準備しておく必要があると思います。今回、抜粋ではありますが、研修内容をお伝えできる機会を頂いたことに深く感謝申し上げます。

義肢・装具・介護レンタル

ご相談ご用命は弊社にお任せ下さい。

社団法人 日本義肢協会登録・中部125号



(株)田村義肢製作所

〒950-1151 新潟市中央区湖南21番地11

TEL 025 281-0303

FAX 025 281-0339



福祉・労災指定

各種車椅子・座位保持装置・ベッド
コミュニケーションエイド・福祉機器一般
介護保険レンタル・介護住宅リフォーム相談

(株) G・T・B

(オーエックス新越)

〒956-0017

新潟県新潟市秋葉区あおば通2丁目28-27

TEL 0250-25-2626 FAX 0250-25-7710

<http://www.gtb-niigata.jp/>

施設紹介のページ



かもしか病院

久保裕史

金物工業や鍛冶の町として全国的に知られる三条市、その東端の下田地域（旧南蒲原郡下田村）にかもしか病院は位置します。この病院名、一風変わっていると言われることもあります。近隣の野山に棲息する天然記念物のニホンカモシカを由来としているのです。

訓練室からの眺めも美しく、空を舞うハヤブサに、鮮やかな紅葉、八木ヶ鼻を白く染める雪など、四季折々に移ろう景色を目の当たりにする度、入院患者の皆様からは感嘆の声があがります。



平成17年に開院した当院は総病床数180床、全室個室型ユニットを特徴とする療養型病床群です。リハビリテーション課はOT 1名、PT 3名、ST 1名の5名体制。いずれも経験年数10年未満、フレッシュなスタッフが主体です。療養型ということもあり、入院患者の皆様は90歳を優に超える、いわゆる超高齢者の方々の占める割合が多いです。当院の方針として、生き甲斐としての食事（経口摂取）の可能性を探るという点には重きを置いています。その方の生活に即したりハビリとはどのようなものか？という点には常に頭を悩ませています。ご本人及びご家族方のご希望へ耳を傾けることを疎かにせず、ご意向に添えるよう切磋琢磨しています。

介護老人保健施設さくら苑

羽賀佳枝

こんにちは、加茂市の介護老人保健施設さくら苑です。当苑はH8年に旧青柳医院を母体とする老健としてオープンし、H25年秋より白根大通病院をはじめとする医療法人社団白美会の一施設となりました。PT主体にリハビリテーションが提供されていましたが、H26年度よりOT 1名が配属となりPT 5名と共に入所、通所、訪問の業務を行っています（OTももう1人、STもと希望は果てなく…）。



当苑ですが透析を必要とされる方も20名程と多く入所され、同法人さくらクリニックと連携し生活支援を行っていることは大きな特徴の一つです。作業療法部門では利用者の皆様に十分な活動提供ができているかと問われると…まだまだでお恥ずかしい限りですが、利用者のしたい、できるようになりたい、やってみたい気持ちを大切に日々活動しています。

自慢は当苑の中庭です！散歩に、ひなたぼっこに、畑に、金魚もいて秋にはキウイも食べれたり、利用者の皆様に絶賛大人気でリハビリテーション提供にもってこいのスポットです。今年は他に何を提供できるかな、楽しみながら老健さくら苑スタッフ一同頑張ってます！今後もさくら苑よろしくお願いします。



平成28年度 第5回理事会 議事録

日 時：平成28年7月2日（土）13：30～17：30

会 場：燕労災病院 大会議室

出席者：横田、貝渕、四方、児玉、石井、伊東、尾崎、
片桐、菊入、小山、佐藤、高頭、松岡、松本、
村山、吉井（以上理事）、本間（書記）

〈報告事項〉

○会員管理

入会、退会について ⇒承認

- ・協会未加入者に関しては早期に入会を働きかける。
今年度中に協会・会員規約とリンクするよう定款変更を図る

○新潟県自立支援協議会精神障害者地域移行支援部会 人材育成チーム全体会について⇒ 菊入理事に依頼 要請あり。

○会長報告

- ・3/28、平成27年度新潟県フレイル対策検討準備会
（児玉理事と出席）
- ・5/25、県災害リハ連絡協議会出席。新潟JRATの
報告。
- ・5/26、県リハ専門職協議会として、県医師会、介
護高齢課を表敬訪問。
- ・5/28、OT協会定時社員総会、出席。翌29日、47
委員会出席。
- ・6/3、県老人福祉施設協議会、他職種連携研修・
講師
- ・6/15、長岡地域ケア会議傍聴参加 窓口担当者へ
の指導 市介護保険課と意見交換
- ・6/18、ヘルス&ビューティ・カワイイメッセin
NIIGATA ミニセミナー講師
- ・6/13、認知症サポ養成講座 柏崎総合高校にて講
師。

○四方副会長

- ・新潟県リハ専門職協議会主催 第5回新潟県訪問リ
ハビリテーション実務者研修会 第1回実行委員会
議報告。
- ・9/22開催予定、新潟県民医療推進協議会 H28年度
健康寿命延伸フォーラム開催について進捗報告。
- ・第7回訪問リハ地域リーダー会議参加報告。

○村山理事(地域支援事業)

- ・新潟県リハビリテーション専門職協議会会議
H28年度医療介護推進基金事業に伴う本年度研修会
について⇒OTは石井理事を講師とし、認知症関連
1～2月に2日間で予定
- ・H28年度窓口担当者会議（新潟・長岡）実施報告。
- ・地域ケア会議に資する作業療法士人材育成研修会
→8/27（土）医療福祉大で研修を実施

○佐藤理事(生涯教育)

- ・生涯教育委員会第1回会議⇒卒後教育として基礎研
修に付加をつける様に次年度計画していく

○石井理事

- ・在宅医療介護連携推進センター関連打ち合わせ
→運営委員会に参加できるよう3職種協力してマニ
アル作成する。

○伊東理事（特別支援教育）→委員の派遣体制につ いて依頼窓口を県士会事務局にお願いしたい。要調整。

○吉井理事(財務)

- ・熊本県士会へお見舞金として¥50,000支出した。

〈協議事項〉

○地域支援事業・事業名称変更について（村山理事）

「地域支援事業」⇒「地域包括ケアシステム推進事
業」へ。

（理由）今年度は地域支援事業という枠では収まりき
らない事業となる見通しであることから、「地域包
括ケアシステム推進事業」と改めたい。 ⇒ 承認
また、[窓口担当]改め[支部長]へ名称変更する。

○特定個人情報取扱規定（案）について

⇒ 承認。平成28年7月2日より施行とする。

○日本心理教育・家族教室ネットワーク第20回研究 集会新潟大会・運営委員推薦依頼 ⇒ 松岡理事を 推薦。

平成28年度 第6回理事会 議事録

日 時：平成28年8月4日（木）19：00～21：00

会 場：燕労災病院 大会議室

出席者：横田、貝渕、四方、北上、児玉、石井、伊東、
尾崎、片桐、菊入、高頭、能村、松岡、松本、
村山、吉井（以上理事）、水越、渡辺（以上
監事）

〈協議事項〉

○公益目的支出計画変更について

公益目的支出計画が当初予定の平成28年3月末ま
でに計画が完了せず、約38万円の残金が出てしまっ
たため計画完了期日の変更を検討。

申請資料を基に、公益事業の内容と支出等を検討
した結果、完了予定を平成29年3月31日とすること
に決定した。

○会員管理

8月3日まで届出の入・退会、復会を承認した。

以上

入会、会員情報変更の届けはお早めに

まだ、入会届を出されていない方、所属先の変
更があった方は、早急に事務局に届けください。
ご注意ください!!

入会届…郵送のみ可。会員情報変更…FAX可。

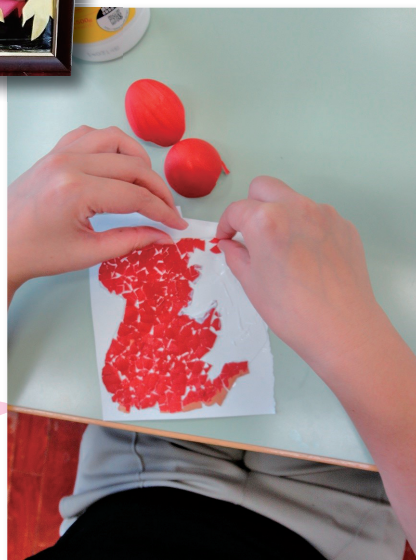
作業療法のちから ～叶える可能性～

～ 厚生連中条第2病院 デイケアより ～

当院のデイケアに通所している方々が作った作品です。錦鯉は色を塗った卵の殻を画用紙に貼りました。完成した作品は当院の外来玄関に掲示しています。作ったご利用者様達より一言頂きました。



- ・みんなで凄い物を作れて楽しかった。
- ・卵の殻を鯉の絵に貼るのが大変でした。
- ・秋らしいものを作ることができて良かった。
- ・住んでいる地域らしい錦鯉を作れた。満足です。
- ・紅葉を紙から切り抜くことが、量も多くて細かくて苦戦した。
- ・作品を見た人たちから、「すごいね。」「キレイだな。」と言われて嬉しかった。



皆さんもこのページに日々の作業療法の成果を掲載してみませんか？Activityによる作品だけでなく利用者様との思い出の写真等でもOKです！少しでも興味のある方は下記の連絡先まで!!（次回発行は2月末頃を予定しています）

新潟県作業療法士会事務局

〒950-0872

新潟市東区牡丹山3丁目1番11号 三森ビル301号

<TEL> 025-279-2083 <FAX> 025-384-0018

<E-mail> ot-niigata.toki4721@helen.ocn.ne.jp

No. 2 2016年11月15日発行

発行責任者：横 田 剛

編集責任者：尾 崎 生

発 行：一般社団法人新潟県作業療法士会広報部

〒950-0983 新潟市中央区神道寺2-5-1

総合リハビリテーションみどり病院

印 刷：株式会社 タ カ ヨ シ